



副園長 奥村 綾

～生活発表会に向けて～

3学期に入り、各クラス表現活動や造形活動などが盛り上がっています。

育ちの芽11号でもお伝えしましたが、今年度の生活発表会は、劇や合奏など毎日練習をして、発表会当日に保護者の皆さんに成果を発表するという会ではなく、さまざまな遊びや活動を通して得たことなど、クラスらしさを表現する場として捉え、子ども主体で考えて取り組んでいます。

劇遊びの内容は、各クラスの解説にもありますが、子ども達の意見やアイデアがたくさん入っていて、ストーリーや登場人物等も、子ども達が考えて進めています。毎回決まった表現やセリフではなく、その時の気持ちや状況で表現したり、アドリブやハプニングも多く見られ、子どもならではの発想に驚かされたり、なかなか話が進まなかったりしています。

舞台遊びの際も、お客さんに見えるようにマイクの前に立つことや、舞台の前の方に出てくることなど敢えて声掛けはせず、

「見えるところに来てごらん」「あいているところどこかな？」という声掛けに、我先にとマイクの前に立ち、思い切り自己表現する子もいれば、舞台の後ろの方で自分なりに表現している子、友達の隣や少し後ろにいて安心して表現出来る子など、それぞれ自分で立ち位置を考える姿が見られます。

合奏をするクラスは、曲に合わせて思い思いのリズム打ちを楽しんでいます。すべての楽器を経験した上で、毎日同じ楽器を演奏する子もいれば、日によって違う楽器を選んで演奏している子もいます。

「この曲は静かだから、スズとトライアングルにしよう」

「ここは、こんな風に叩こう」など、リズム打ちも考えて楽器遊びを楽しんでいます。

子ども達だけでホールで楽器遊びをしているクラスがあり、様子を見てみると、一人の子が、右手に大太鼓、左手に小太鼓でリズム打ちをしながら、

「トントン トントン トンタンタン！」と他の楽器を指さして、指導している姿が見られました。

造形活動についても、昨年度までは、全員が幼稚園にある不織布で作った衣装を身に着け、お面や小道具・大道具等必要なものを、教師主導で考え、子ども達に作成を促していましたが、今年度は、衣装や小道具等もそれぞれがイメージを膨らませ、必要なものを考えて制作できるように配慮しています。

先日、『ゾンビ役』の女の子たちが、カラーのポリ袋を使って衣装を作っていました。大人の感覚からすると『ゾンビ』=暗い色(グレーや黒等)をイメージすると思いますが、その子達は、ピンクや黄色のカラフルな色を選び、

「先生～ゾンビに見える？」と嬉しそうに聞いてきました。

たまたまそこに居合わせた園児にアドバイスをもらい、より怖く見えるように工夫し、

「怖い目を20個くらいつけたからゾンビに見えるやろ!!」と満足そうにしていました。

動物の被り物も、以前は教師が作り方を知らせて作っていましたが、今回は子ども達の発想に任せてみると、リアルな動物の写真を見ながら、

「目はピンク色にしよ」「白い毛生えてるから描いとこ」「わににブツブツついてるな」「ゴリラの鼻の穴でかいな」と、それぞれ細かく工夫し、オリジナルのお面が出来上がりました。

お客さんからは、そのような細かい工夫は見えにくいかもしれませんが、見た目で分かりやすいものや見映えではなく、子ども達の発想を大切にしました。

先日の予行では、お客さんがいる前で、保育室の様子とは違う子ども達の姿が見られました。

○うさぎさんが建てた家を、オオカミさんはキックやパンチで思い切り壊してバラバラにするシーンで、

【先生】 「向こうからオオカミさんがやってきましたよ。さあ今日はどんな攻撃にする？」

【オオカミ】「キック攻撃!」（子どもから出る攻撃は毎回違います。）

家からだいぶ離れたところで、今までに見たことのない遠慮がちなキックで、足が家に届かずなかなか家が壊れません。3回繰り返しましたが、結局壊さずに終わってしまいました。

○警察とドラゴンが攻撃をし合うシーンで、いつもは何回かやり取りがあるのですが、同じ役の子が欠席だったのでいつもと違う状況に緊張してか「今日は攻撃やめとくわ」とつぶやき、戦いが始まりませんでした。

○幕が開いてヒーロー達が踊るシーンで、いつもはノリノリのヒーロー達が全く踊らず、先生のピアノだけが鳴り響いていました。

○合奏では、それぞれ演奏するパートがあるのですが、曲の最初から最後まで、全部の楽器が鳴っていました。

このように、日々の生活の中で、さまざまな表現活動を行いながら、一人ひとりの自信につなげたり、人前に立つことに苦手意識のある子には、楽しんで参加できるように雰囲気作りを工夫したりし、クラス全体で盛り上げてきました。

発表会当日、大勢のお客さんの前で、保育室での様子をそのまま舞台上で表現できることが一番だと思いましたが、限られた時間、限られたスペースでの発表ということで、それぞれの想いが伝わるか、また、当日観ていただく部分はほんの一部で、舞台上での細かな表現ということで、保護者の皆さんにとっては少し物足りない感じがするかもしれませんが、子どもが自分なりに考え、表現している姿を温かく見守ってあげてくださいね。

また、当日は、各クラスの解説をよく読んで内容を理解し、取り組んできた過程を想像しながら、保護者の皆さんも一緒に楽しんでご覧になっていただきたいと思います。そして、『上手にできた・できなかった』『大きな声でセリフが言えた・言えなかった』『良く見えた・見えなかった』という視点ではなく、友達と協力し合い、楽しんできた経過を認め『やり遂げた喜び・満足感』など子どもの気持ちに共感し、意欲や自信につながるような言葉をかけていただければと思います。